

The Emerging Market Weekly

国際為替部

マーケット・エコノミスト

佐々木 貴彦

03-3242-7065

takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

齋藤 周

03-3242-7065

amane.saito@mizuho-bk.co.jp

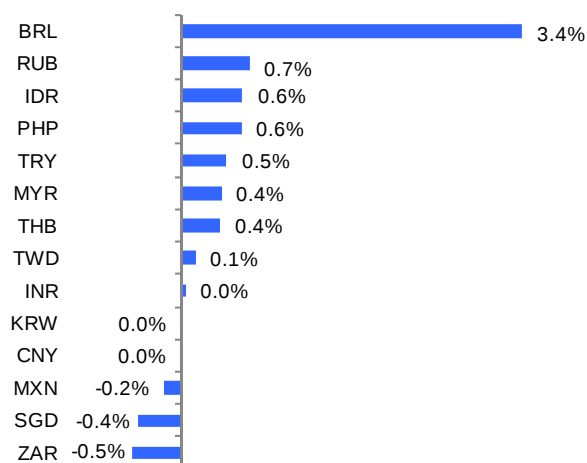
今週のエマージングマーケット

イベントを多数こなすも、大きな方向感はず

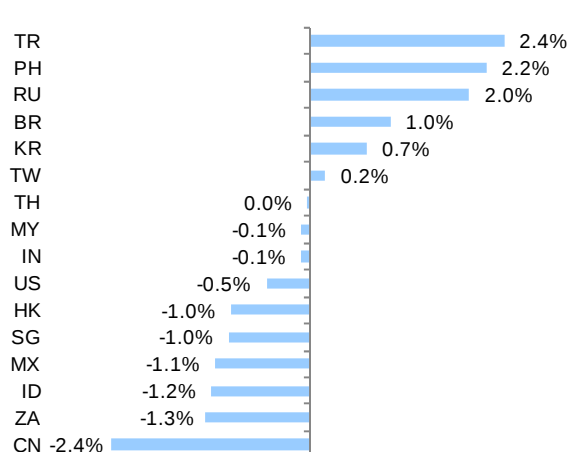
今週の新興国通貨はまちまちの展開。先週末に発表された米 2 月雇用統計において、平均時給が前月比で減少したことが嫌気されドルが下落。週初は原油価格の上昇に連れ、資源国通貨を中心に新興国通貨は底堅い動きとなった。8 日に発表された中国 2 月貿易統計は市場予想を大幅に下回り、アジア通貨を始めとした新興国通貨は、売り優勢の展開に転じた。9 日は原油価格の上昇とともに資源国通貨は再び連れ高となるも、他の新興国通貨は上値重く推移。注目の ECB 理事会では、債券買い入れ対象に社債も含めるなど緩和策の強化が図られたものの、ドラギ ECB 総裁がマイナス金利幅の拡大について否定したことから、EUR は上昇した。しかしながら、新興国通貨に与える影響は限定的となった。

個別通貨でみると、ルラ元大統領が汚職疑惑で一時拘束された後に、訴追されたことで、ルセフ大統領が退陣に追い込まれるとの期待が高まり、BRL (+3.4%) は大きく上昇。また、原油価格の上昇に連れ、RUB (+0.7%) は買われた。そのほか、中国 2 月貿易統計の冴えない結果や韓国中銀(BOK)の利下げ期待を背景に、週央にかけて前週末比で▲1%近く下落していた KRW (+0.0%) は、BOK が利下げを見送ったことなどが好感され値を戻す展開となった。

エマージング通貨騰落率(対ドル)



エマージング株式騰落率



(注) US: 米国 S&P500 種指数、CN: 中国上海総合指数、HK: 香港ハンセン指数、IN: インド SENSEX30 種指数、ID: インドネシアジャカルタ総合指数、KR: 韓国総合株価指数、MY: マレーシア FTSE ブルサマレーシア KLCI インデックス、PH: フィリピン総合指数、SG: シンガポール ST 指数、TW: 台湾加権指数、TH: タイ SET 指数、RU: ロシア RTS 指数、ZA: 南アフリカ FTSE/JSE アフリカ全株指数、TR: トルコイスタンブールナショナル 100 種指数、BR: ブラジルボベスバ指数、MX: メキシコボルサ指数

(資料)ブルームバーグ

エマージングマーケット短期見通し

イベントを多数こなすも、新興
国通貨はレンジ内推移に

FOMC にかけて、新興国通貨
は売り優勢の展開か

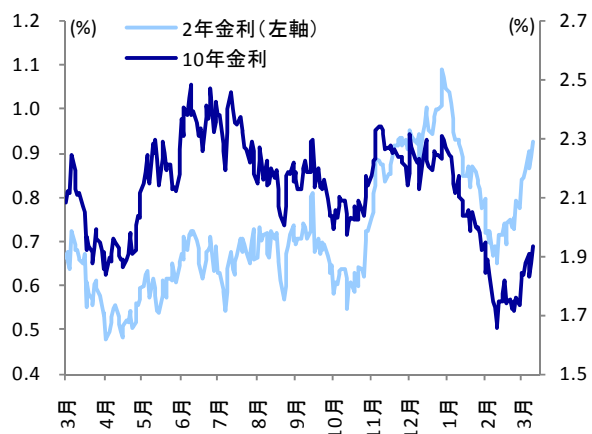
今週の新興国通貨市場は、ルラ前大統領の拘束・起訴をきっかけに政権交代への期待が高まったことで BRL が大きく買われたほか、原油高に連れて資源国通貨高となった以外は、動意に乏しい展開となった。全人代も予想通りの目標値設定が行われ、ECB 理事会についても更なる緩和には慎重な姿勢を示したことから、新興国通貨に与える影響は限定的となっている。

来週は、17 日（木）にインドネシアと南アフリカ、18 日（金）にロシアとメキシコがそれぞれ金融政策決定会合を開催する。しかしながら、来週の新興国通貨市場において最も大きな影響を与えるのは、やはり 15 日（火）～16 日（水）にかけて開催される FOMC であろう。前回会合後、政策金利見通しの維持を示唆する FRB 高官がいる一方で、世界経済の先行きについて不透明感が高まっていることを懸念し、追加利上げに消極的な発言をする FRB 高官もあり、FRB 内でも意見が割れている模様だ。斯かる状況下、今会合で追加利上げが決定される可能性は低いと考える。FOMC メンバーの政策金利見通し（所謂、ドットチャート）についても、見通しの引き下げにまで言及している高官は少なく、各年末における予想中央値が大きく引き下がることはないだろう。

過去 3 年間の政策金利が発表された前後の新興国通貨の値動きを振り返ると、来年の政策金利見通しが横ばいとなった場合、FOMC 前に売り優勢の展開となり、FOMC 後も値を戻せずにレンジ内推移となるケースが多い。こうした過去の傾向に基づけば、来週の新興国通貨は週前半より売り地合いとなり、FOMC 後は動意が乏しい展開となるだろう。

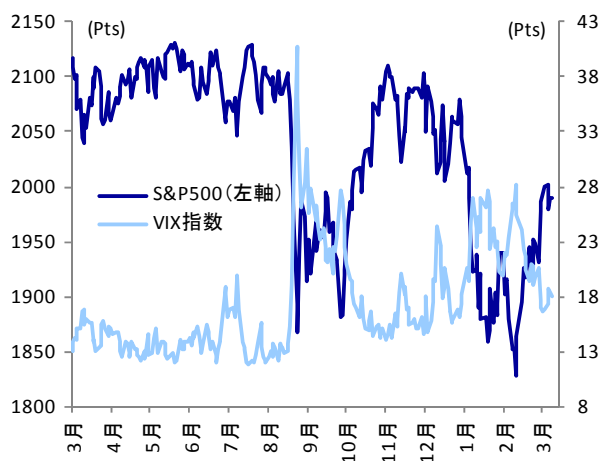
リスクは、FOMC 後に主要通貨についてドル全面高の展開となること。その場合は、中国人民銀行（PBoC）が通貨バスケットで見た CNY 高を防ぐため、基準値を CNY 安方向に切り下げる可能性が高く、新興国通貨も売り優勢の展開を予想する。

図表 1: 米国債利回りの推移(過去 1 年間)



(資料)ブルームバーグ

図表 2: 米株と VIX 指数の推移(過去 1 年間)



(資料)ブルームバーグ

エマージングマーケット:国別の注目材料

中国: 全国人民代表大会レビュー、今週発表の経済指標について

全人代の各種目標値は概ね事前予想通り

5日から開催されている全国人民代表大会（以下、全人代）において、第13次5か年計画（2016～2020年）にかかる目標値が発表された。GDP成長率については、昨年末の経済工作会議にて議論された通り、従来の前年比+7.0%から同+6.5%～+7.0%に下方修正された。財政収支については、財政赤字を従来の対GDP比▲2.3%から同▲3.0%に拡大するとし、市場予想通り、財政政策の積極活用を打ち出した。また、消費者物価指数（CPI）の目標値を前年比+3.0%前後に据え置く一方で、M2（マネーサプライ）の目標値は同+13%前後と前年（同+12%前後）から拡大させるなど、金融政策については緩和姿勢を続けることが示された。なお、従前とは異なり、貿易量に関する目標は示されなかった。李首相が演説でも述べている通り、外部環境の悪化が貿易量の低下に繋がっており、中国だけの努力では持ち直しが難しいとの現状認識があったと思われる。総じて事前予想通りの内容であり、今週の新興国通貨市場に与える影響は限定的となった。

2月の外貨準備減少額は、前月対比で少額に止まった

7日に発表された中国2月外貨準備は3兆2023億ドルとなり、1月（3兆2309億ドル）からの減少額は約▲280億ドルと、前月に見られた約▲1000億ドルの減少と比較すると、減少速度は緩やかとなった。しかしながら、2月は旧正月で長期間休場だったことが影響していると考えられ、今後も減少額の拡大には注意が必要となる。

2月の輸出は2009年5月以来の大幅なマイナスの伸びに

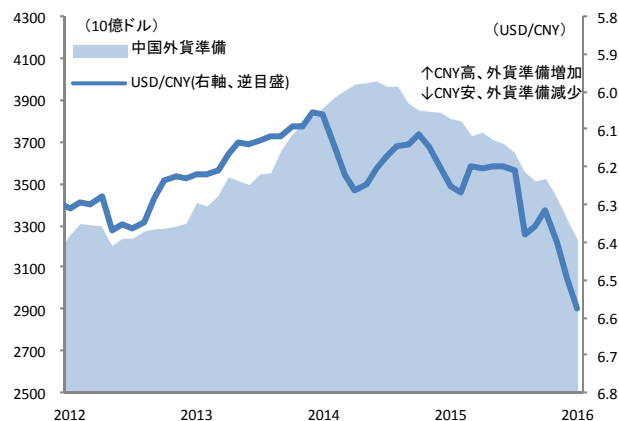
8日に発表された中国2月貿易統計では、輸出が前年比▲25.4%（市場予想：同▲14.5%、1月：同▲11.2%）と、市場予想や前月を下回り、2009年5月以来の大幅なマイナスの伸びを記録した。旧正月の影響はあったものの、中国の輸

図表3: 中国 全人代 各種目標値

	前年目標値	今年目標値
実質GDP (前年比)	+7.0%前後	+6.5%～+7.0%
財政収支 (対GDP比)	▲2.3%	▲3.0%
消費者物価指数 (前年比)	+3.0%前後	+3.0%前後
マネーサプライM2 (前年比)	+12.0%前後	+13.0%前後

(資料)各種報道、みずほ銀行

図表4: 中国 外貨準備とCNY



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

出が減速基調にあることは変わらない。今年は貿易量に関する目標値は設定されておらず、輸出量の低迷が中国人民銀行（PBoC）の CNY 基準値切り下げに直ぐに繋がることはないだろう。しかしながら、内需も減速すれば、資本流出圧力が高まり、再び CNY 安方向に推移する可能性が高い。12 日（土）発表の 2 月鉱工業生産、2 月小売売上高、2 月固定資産投資の数値（いずれも年初来）など、内需関連指標が PBoC の為替政策に与える影響が従来より大きくなると予想する。

南アフリカ：金融政策決定会合プレビュー

CPI の急上昇を受けて、SARB は利上げを決定か

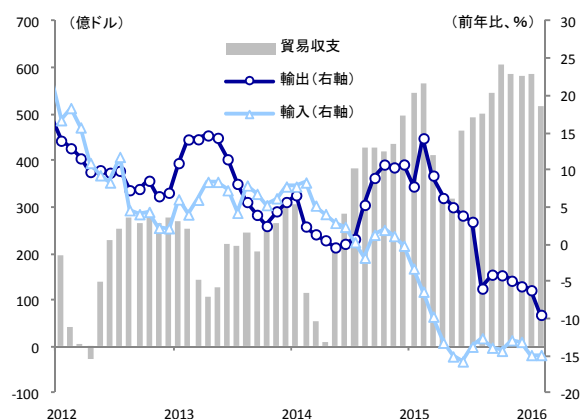
17 日（木）に開催される南アフリカ中銀（SARB）の金融政策決定会合では、政策金利を 25bp 引き上げ、7.00%にすると予想する。SARB は前回会合（1 月 28 日）にて、南ア 12 月 CPI が前年比+5.2%とインフレターゲット（+3~+6%）内だったにも拘わらず、政策金利を 50bp 引き上げた。ZAR 安による輸入物価上昇を背景としたインフレ圧力は高まりつつあるとの判断が利上げに繋がった模様だ。前回会合後に発表された南ア 1 月 CPI は同+6.2%と加速し、SARB のインフレターゲットを上回った。この結果を受け、ナイドゥ SARB 副総裁は物価上昇率を目標圏内に再び押さえ込むには短期間に思い切った金融策対応が必要であるとの見方を示し、またクガニャゴ SARB 総裁も「インフレ率の急騰は我が国の経済にとって望ましいものではない」と述べるなど、タカ派的な姿勢を強めている。こうした高官発言に鑑みるに、SARB はインフレ率をターゲット内におさめるために、17 日の会合で利上げに踏み切るだろう。

インドネシア：金融政策決定会合プレビュー

利下げの下限はインフレ率か

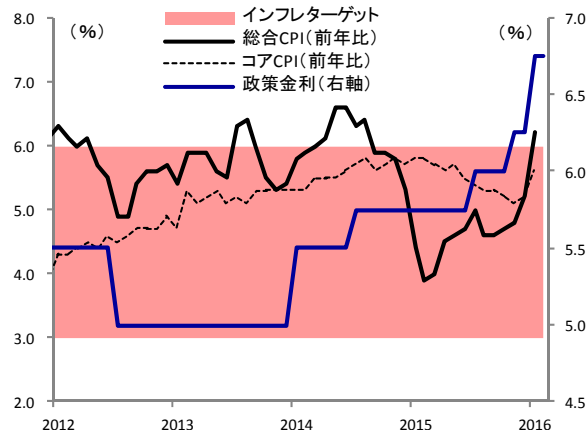
17 日（木）に開催されるインドネシア中銀（BI）の金融政策決定会合では 25bp の利下げを予想する。前回会合（2 月 18 日）で BI は政策金利を 25bp 引き下げ 7.00%としたほか、預金準備率を 7.5%から 6.5%に引き下

図表 5：中国 貿易収支



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 6：南アフリカ 政策金利と消費者物価指数



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

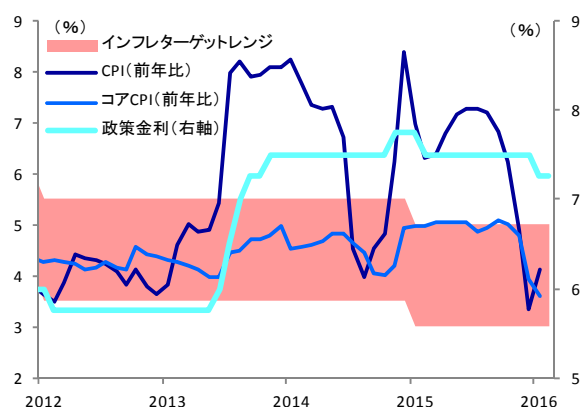
げた。利下げ決定の背景には、2015 年の成長率が政府目標を大きく下回る中で、政府の景気下支え策への協力があるだろう。インフレ率に落ち着きが見られたことも BI の利下げを後押しした模様だ。会合後に発表された経済指標を見ると、2 月製造業 PMI は 48.7 と 1 月 (48.9) から低下し、2014 年 9 月以降 17 か月連続で景気拡大/縮小の境目となる 50 を下回るなど景況感の持ち直しは未だ見られていない。そうした中、2 月 CPI は前年比+4.36%と 1 月 (同+4.14%) から僅かながら加速した。BI 高官からは「インフレ率が 4%にとどまる限り、政策金利を 4%に引き下げることにはできない」と政策金利の下限がインフレ率とも取れる発言が聞かれている。そのため、足許の政策金利とインフレ率との差を踏まえると依然として BI の利下げ余地は大きい。他の BI 高官からも「利下げ余地はまだある」「毎月その都度 (緩和を) 検討」との主張もなされており、景気下支えを理由にもう一段の利下げが行われると予想する。

ロシア：金融政策決定会合プレビュー

RUB 安は一服も、CBR はインフレ抑制姿勢を維持

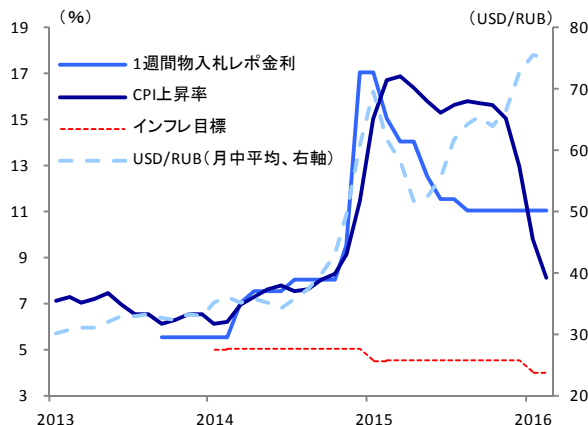
18 日 (金) に開催されるロシア中銀 (CBR) 金融政策決定会合では、政策金利 11.00%の据え置きを予想する。CBR は昨年 12 月会合で「インフレ上昇圧力が後退すれば来るべき会合で政策金利を引き下げる」との姿勢を見せていた。しかし、前回 (1 月 29 日) 会合の声明文で「インフレリスクが増幅するならば、金融政策の引き締めも排除しない」とし、4 会合連続で現状維持を決定した。昨年末以降の原油安とそれに伴う RUB 安を受けて政策スタンスを転換した模様だ。なお、2 月以降は原油価格の底入れとともに、RUB も上昇に転じている。また、2 月の CPI は、前年比+8.1%と 1 月 (同+9.8%) から急減速しているため、CBR には再び利下げ余地が生じていると言えるだろう。しかし、CBR は 2 月 25 日に外貨預金の準備率引き上げと外貨融資に対する引当金の積み増しを決めるなど、RUB 変動に伴う国内経済への悪影響軽減に腐心しており、RUB 安を招きかねな

図表 7: インドネシア 政策金利と消費者物価指数



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 8: ロシア 政策金利と消費者物価指数



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

い利下げについては、今後さらにインフレ率が低下することを慎重に確認した後に実行され则认为。よって、今回の会合ではインフレ抑制を目的に政策金利を据え置くだろう。

メキシコ：金融政策決定会合プレビュー

MXNの堅調な値動きを受けて、BOMは利上げを見送る

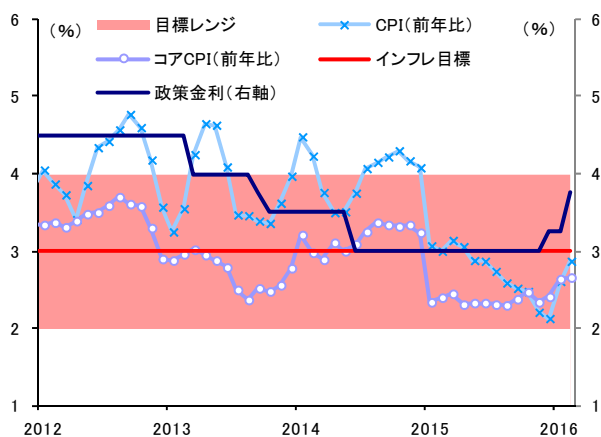
18日（金）に開催されるメキシコ中銀（BOM）の金融政策決定会合では、政策金利3.75%の据え置きを予想する。2月17日にBOMは緊急の金融政策決定会合を開催し、MXN安による物価圧力を抑制するために、政策金利の50bp引き上げを決定した。同時に2009年以来となる直接介入に踏み切っており、資本流出やMXN安に対する強い懸念が、緊急利上げの背景にあると推測される。利上げ後のMXNは堅調に推移しており、本会合にて追加利上げが必要な状態ではない。しかしながら、原油安を背景に再びMXNが急落すれば、BOMは今後も利上げを実行するであろう。

マレーシア：金融政策決定会合レビュー

緩やかな経済成長が見込まれることから、現状を維持を決定

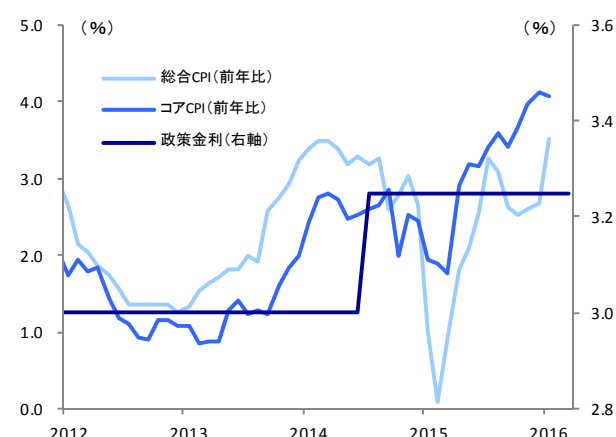
9日に開催されたマレーシア中銀（BNM）金融政策決定会合では、市場予想通り政策金利が現状の3.25%に据え置かれ、前回会合（1月21日）に引き下げられた法定準備率（SRR）についても据え置かれた。声明文は前回から大きな変更はなく、世界経済は緩やかに回復しているものの、先進国の景気回復速度は鈍く、アジア諸国経済は輸出が減速する中、内需によって経済成長が続いているとした。一方で、コモディティ価格の急落や過剰債務問題、地政学的リスクの上昇など、ダウンサイドリスクに関する記述が前回より詳細になった。国内経済については、インフラ開発プロジェクトや製造業とサービスセクターによる設備投資などを背景に、緩やかな成長が続くとした。インフレについては2015年よりは加速するとみられるものの、エネルギーやコモディティ価格の低迷により緩和され、当初想

図表 9：メキシコ 政策金利と消費者物価指数



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 10：マレーシア 政策金利と消費者物価指数



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

定していた以上に緩やかな伸びになると楽観的な姿勢を示した。BNM は今後も国内経済指標が悪化を見せない限り、政策金利は据え置くと予想する。なお、来月に退任が予定されているゼディ BNM 総裁の後任については、未だ指名されておらず、正式発表が待たれる。

ブラジル：インフレ圧力は後退

インフレの減速を受けて、BCB の利下げ観測も

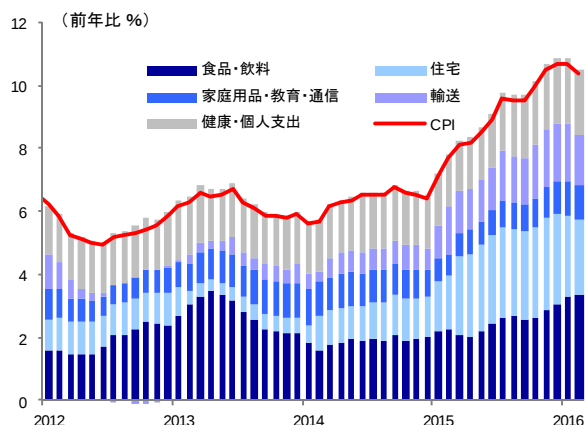
9 日に発表されたブラジル 2 月拡大消費者物価指数（IPCA）は前年比 +10.36%と 1 月（同+10.71%）から 5 か月ぶりに減速した。内訳を見ると、1 月に豪雨の影響によって価格が急上昇していた食品・飲料費（12 月：同 +3.0%→1 月：同+3.3%）が、2 月（同+3.4%）は上昇ペースが一服。また、水力発電所の貯水量が回復して発電コストが低下したことで、電気料金を含む住宅費（1 月：同+2.6%→2 月：同+2.3%）が減速し、全体のインフレ率を縮小させている。ブラジル中銀（BCB）はこれまでインフレ率の拡大を理由に利上げを行ってきたが、足許では景気停滞を理由に 2 会合連続で政策金利の据え置きを決定するなどハト派な姿勢を強めている。そのため、今後もインフレ率の減速が続くようであれば、BCB が利下げに踏み切る可能性が高まるだろう。

韓国：金融政策決定会合レビュー

金融市場の不安定化を懸念して BOK は利下げを見送り

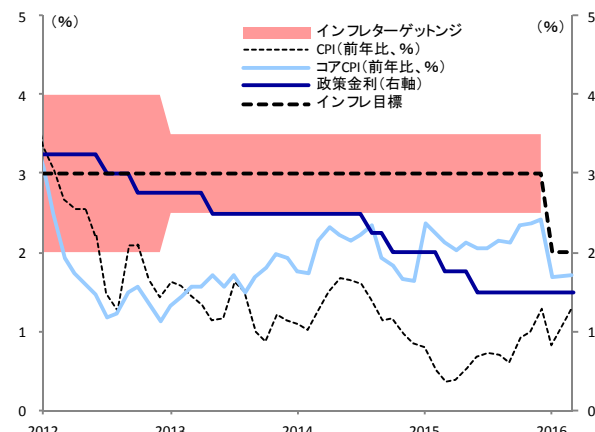
10 日に開催された韓国中銀（BOK）の金融政策決定会合では市場予想通り政策金利が 1.50%に据え置かれた。据え置きは 9 会合連続だが、前回会合に引き続き Ha Sung-Keun 委員が利下げ票を投じている。声明文では外部経済の認識に際して米国経済の見通しが上方修正されたものの、その他の地域は据え置かれた。また、韓国経済に関しては輸出の減少傾向と消費の回復モメンタムの弱まりが見られるなど、前回と同様にやや悲観的な見通しを示した。李 BOK 総裁は会見で、前回会合後に懸念を示した世界経

図表 11：ブラジル 拡大消費者物価指数



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 12：韓国 政策金利と消費者物価指数



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

(注)韓国中銀は、2016 年よりインフレターゲットレンジを廃止

済と韓国金融市場の先行きについて「不確実性は低下した」と述べた。しかしながら、「現状の金利水準は十分緩和的」であり、政策金利据え置きは「経済の成長経路を注視するため」としている。李総裁は、「金融市場の安定は経済成長と同じ位に重要だ」とも発言しており、利下げに伴う資金流出や KRW 急落に対する強い懸念も、据え置きの理由になった模様だ。次回会合（4 月 19 日）にて、経済見通しの下方修正とともに BOK が利下げを行う可能性は引き続き高いと考えるものの、KRW が現在より安定した値動きを見せない場合、再び利下げは見送られるだろう。

エマージング経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
3月4日 (金)	フィリピン	2月 消費者物価指数(前年比)	1.3%	0.9%	1.3%	--
4日 (金)	マレーシア	1月 貿易収支MYR	7.60b	5.39b	7.99b	8.25b
7日 (月)	台湾	2月 貿易収支	\$3.55b	\$4.16b	\$3.51b	--
8日 (火)	中国	2月 貿易収支	\$51.00b	\$32.59b	\$63.29b	--
8日 (火)	中国	2月 輸出(前年比)	-14.5%	-25.4%	-11.2%	--
9日 (水)	マレーシア	BNM翌日物政策金利	3.25%	3.25%	3.25%	--
9~31日	インド	4Q 国際収支: 経常収支	-\$3.63b	--	-\$8.21b	--
3月10日 (木)	フィリピン	1月 輸出(前年比)	0.4%	-3.9%	-3.0%	--
10日 (木)	中国	2月 消費者物価指数	1.8%	2.3%	1.8%	--
10日 (木)	韓国	3月 韓国銀行7日間レートの	1.50%	1.50%	1.50%	--
10~15日	中国	2月 M2(前年比)	13.7%	--	14.0%	--
10~15日	中国	2月 新規貸出(人民元)	1200.0b	--	2510.0b	--
10~15日	インド	2月 貿易収支	-\$7176.0m	--	-\$7638.9m	--
3月14日 (月)	インド	2月 卸売物価(前年比)	-0.3%	--	-0.9%	--
14日 (月)	インド	2月 消費者物価指数(前年比)	5.5%	--	5.7%	--
15日 (火)	シンガポール	1月 小売売上高(除自動車/前年比)	--	--	-3.6%	--
15日 (火)	インドネシア	2月 貿易収支	--	--	\$51m	--
15日 (火)	インドネシア	2月 輸出(前年比)	--	--	-20.7%	--
15日 (火)	フィリピン	1月 海外送金(前年比)	--	--	4.9%	--
16日 (水)	韓国	1月 失業率	--	--	3.5%	--
17日 (木)	シンガポール	2月 非石油地場輸出(前年比)	--	--	-9.9%	--
18日 (金)	インドネシア	2月 インドネシア銀行レートの	--	--	7.0%	--
19日 (土)	フィリピン	2月 総合国際収支	--	--	\$813M	--
中東欧・アフリカ						
3月4日 (金)	ロシア	2月 消費者物価指数(前年比)	8.4%	8.1%	9.8%	--
10日 (木)	南アフリカ	4Q 経常収支	-173b	-208b	-165b	-172b
10日 (木)	トルコ	1月 経常収支	-2.40b	-2.23b	-5.07b	-5.05b
10日 (木)	南アフリカ	1月 鉱物生産量(前年比)	-0.2%	-4.5%	-0.3%	-1.2%
10日 (木)	南アフリカ	1月 製造業生産(季調済/前月比)	0.3%	-1.8%	1.8%	1.9%
11日 (金)	ロシア	1月 輸出	20.5b	--	28.4b	--
11日 (金)	ロシア	1月 貿易収支	10.5b	--	11.0b	--
15日 (火)	トルコ	12月 失業率	--	--	10.5%	--
16日 (水)	南アフリカ	1月 小売売上高(実質値、前年比)	--	--	4.1%	--
16日 (水)	ロシア	2月 鉱工業生産(前年比)	-2.1%	--	-2.7%	--
17日 (木)	南アフリカ	SARB政策金利	6.75%	--	6.75%	--
18日 (金)	ロシア	主要金利	11.00%	--	11.00%	--
ラテンアメリカ						
3月4日 (金)	ブラジル	1月 鉱工業生産(前年比)	-14.8%	-13.8%	-11.9%	-12.1%
4日 (金)	メキシコ	12月 総設備投資	-1.4%	1.1%	-0.4%	--
7日 (月)	メキシコ	2月 消費者信頼感指数	92	89	93	--
9日 (水)	メキシコ	2月 消費者物価指数(前年比)	2.9%	2.9%	2.6%	--
9日 (水)	ブラジル	2月 IBGEインフレ率IPCA(前年比)	10.4%	10.4%	10.7%	--
10日 (木)	ブラジル	1月 広義小売売上高(前月比)	-1.7%	-1.6%	-0.9%	-1.0%
11日 (金)	メキシコ	1月 鉱工業生産(季調前/前年比)	0.2%	--	0.0%	--
11~12日	ブラジル	1月 経済活動(前年比)	-7.1%	--	-6.5%	--

(注)2016年3月11日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
(資料)ブルームバーグ

エマージング通貨相場見通し

		2016年 1～2月（実績）	SPOT	2016年 3月	6月	9月	12月	2017年 3月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.4893 ～ 6.5962	6.5085	6.60	6.65	6.50	6.35	6.30
香港ドル	(HKD)	7.7488 ～ 7.8295	7.7636	7.76	7.76	7.76	7.76	7.76
インドルピー	(INR)	66.135 ～ 68.789	67.068	69.5	68.5	66.0	64.5	64.0
インドネシアルピア	(IDR)	13295 ～ 14002	13052	14000	13850	13650	13500	13300
韓国ウォン	(KRW)	1172.55 ～ 1245.13	1203.41	1250	1260	1240	1210	1190
マレーシアリング	(MYR)	4.0953 ～ 4.4415	4.0960	4.33	4.26	4.20	4.09	3.98
フィリピンペソ	(PHP)	46.820 ～ 48.069	46.650	48.5	47.5	46.5	45.7	44.5
シンガポールドル	(SGD)	1.3861 ～ 1.4444	1.3804	1.42	1.40	1.38	1.35	1.34
台湾ドル	(TWD)	32.835 ～ 33.791	32.915	33.80	34.00	33.50	32.80	32.50
タイバーツ	(THB)	35.65 ～ 36.42	35.23	37.0	36.5	36.0	35.5	35.0
ベトナムドン	(VND)	22183 ～ 22520	22279	22450	22600	22600	22800	22800
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	72.0064 ～ 85.9573	71.4051	72.00	69.00	65.00	60.00	65.00
南アフリカランド	(ZAR)	15.0613 ～ 17.9169	15.3967	15.50	15.00	15.50	16.00	16.00
トルコリラ	(TRY)	2.8899 ～ 3.0614	2.8931	3.00	3.20	3.35	3.50	3.50
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	3.8448 ～ 4.1720	3.6263	4.05	4.15	4.23	4.30	4.33
メキシコペソ	(MXN)	17.1868 ～ 19.4448	17.8410	18.50	18.00	17.50	17.30	17.00
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	16.906 ～ 18.563	17.478	16.97	16.54	16.77	17.01	16.98
香港ドル	(HKD)	14.253 ～ 15.615	14.541	14.43	14.18	14.05	13.92	13.79
インドルピー	(INR)	1.620 ～ 1.823	1.680	1.61	1.61	1.65	1.67	1.67
インドネシアルピア	(100IDR)	0.826 ～ 0.896	0.865	0.800	0.794	0.799	0.800	0.805
韓国ウォン	(100KRW)	8.990 ～ 10.267	9.365	8.96	8.73	8.79	8.93	8.99
マレーシアリング	(MYR)	26.326 ～ 29.357	27.690	25.87	25.82	25.95	26.41	26.88
フィリピンペソ	(PHP)	2.339 ～ 2.570	2.429	2.31	2.32	2.34	2.36	2.40
シンガポールドル	(SGD)	78.93 ～ 85.54	81.78	78.87	78.57	78.99	80.00	79.85
台湾ドル	(TWD)	3.340 ～ 3.671	3.430	3.31	3.24	3.25	3.29	3.29
タイバーツ	(THB)	3.111 ～ 3.412	3.204	3.03	3.01	3.03	3.04	3.06
ベトナムドン	(100VND)	0.4963 ～ 0.5482	0.5067	0.50	0.49	0.48	0.47	0.47
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.359 ～ 1.676	1.580	1.56	1.59	1.68	1.80	1.65
南アフリカランド	(ZAR)	6.525 ～ 7.805	7.330	7.23	7.33	7.03	6.75	6.69
トルコリラ	(TRY)	37.661 ～ 41.265	39.016	37.33	34.38	32.54	30.86	30.57
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	27.727 ～ 30.654	31.197	27.65	26.51	25.77	25.12	24.71
メキシコペソ	(MXN)	5.765 ～ 7.018	6.326	6.05	6.11	6.23	6.24	6.29

(注)1. 実績の欄は2月29日まで。SPOTは3月11日の8時40分頃。2. 実績値はブルームバーグの値。3. 予想の欄は四半期末の予想。

(資料)みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。